

2012 春闘速報

札幌圏 2012 春季生活闘争闘争委員会
2012年3月14日発 第9号発行責任者 平野博宣 TEL011-210-0505 Fax011-210-0606

地域
事業者
労働者
all Win のまちをつくらう!

3/13 札幌市公契約条例を考える市民集会ひらく 経営・働き方・生活の改善に適正なルール必要の声多数！ 3月成立に大きな期待！

「札幌市公契約条例の制定を求める会」（代表 伊藤誠一）は3月13日18時30分より自治労会館で「札幌市公契約条例を考える市民集会」を開催しました。現在、札幌市議会で議論されている札幌市公契約条例は建設・清掃等の業界団体の反対の声も強く3月議会内での成立が厳しい状態となっています。同制定を求める会は同条例がもたらす効果を事業経営・地域生活・労働条件などの観点から正しく理解する必要があるとして本集会を開催しました。冒頭、伊藤誠一代表は今広がりつつある「働いても生活ができない」という状態は何としても改善しなければならないとし、札幌市の公契約条例はそのための契機となり得るものであるとし、成立に向けて市民全体で声を出していこうと約300名の参加者に強く呼びかけました。



300名の参加者に成立を呼びかける伊藤代表

会場発言「条例成立は市民の義務」「安心して働きたい」

印刷業界・地域労働団体・研究者・弁護士によるパネルディスカッションでは、職場・業界動向・労働法制の観点から同条例の必要性が議論されました。会場からの発言では市民から「安さ追求の考え方は考え直すべき。公契約条例は適正な生活確保に必要。成立に期待。」との意見が出されました。また、市の委託業務職場からの報告では、保育職場の非正規労働者の厳しい労働条件が報告され、警備職場からは「毎年の契約更新が不安、どんなにベストな仕事をしていても契約更新でゼロになるのは辛い、賃金改善は条例の中で可能となるのか」等の質問も出されました。本集会は約300名の参加者が途中退席もなく行われ、まとめに立った伊藤代表は本会は条例成立まで継続するとし、札幌から生活改善の波を発信しようと訴えました。



会場からの質問に答えるパネラー